

一短報一

対馬からカタマルヒラアシキバチの記録

境 良朗

カタマルヒラアシキバチ（キバチ科、ヒラアシキバチ属）*Tremex contractus* Maa, 1949 は、国内では本州・四国、国外では中国・朝鮮半島から知られている。同属近似種のヒラアシキバチは秋季に出現するのに対し、カタマルヒラアシキバチは春季～初夏にかけて現れる。他地域ではヒラアシキバチに比べて個体数はかなり少なく稀な種といわれている（写真1）。

対馬においても撮影・採集しているので報告する。

- ・ 1♀, 美津島町大船越, 4-V-2011 採集
- ・ 数頭（内2♀採集）、豊玉町仁位, 10-V-2014 撮影・採集（写真2）
- ・ 1♀, 嶽原町豆駒西浦, 8-IV-2021 杉憲採集



写真1 対馬産カタマルヒラアシキバチ♀

仁位では小規模の土場に飛来していたが、積まれたコナラと思われる伐採木への産卵も観察された（写真3）。幹の堅い樹皮に産卵管を突き刺して産卵するが、産卵後はそのままの状態で生を全うするらしく、産卵管が突き刺さったまま腹部末端だけがちぎれて残っている状態のものを数個体見た。鳥か小動物などに捕食されたのかもしれない（写真4）。今回、姿が見られたのは5月4日～5月11日の非常に短い期間であったが、5月上旬頃が発生のピークであることが推察された。



写真2. カタマルヒラアシキバチ♀



写真3. 産卵中



写真4. 刺さったまま残された産卵管

九州では記録のない本種が対馬に生息していたことは朝鮮半島の分布との関わりからも意義のあることと思われる。対馬でのさらなる記録の蓄積とみの発見に期待したい。

最後になるが、同定及び本種の分布等について御教示いただいた杉浦直人氏、嶽原町の採集個体を提供いただいた杉憲氏にお礼申し上げる。